



TOAGOSEI

Commodity Chemicals

Acrylic Products

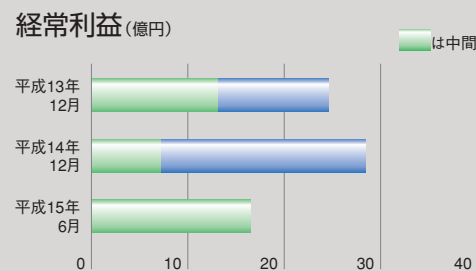
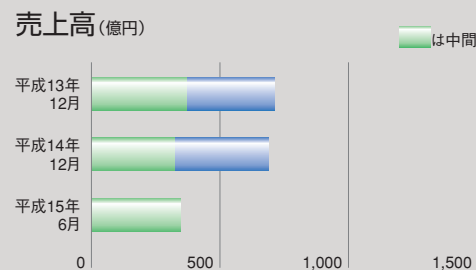
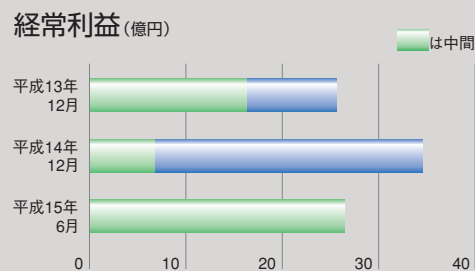
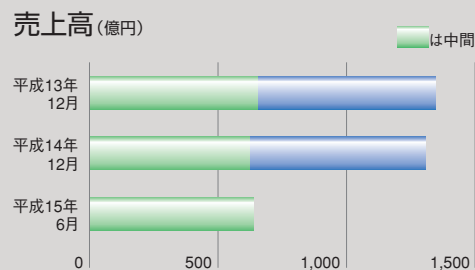
Specialty Chemicals

Plastics

第91期
中間事業報告書

平成15年1月1日から
平成15年6月30日まで

	連 結		単 独	
	平成15年度中間期	平成14年度中間期	平成15年度中間期	平成14年度中間期
売上高 (百万円)	64,577	62,962	35,080	33,516
経常利益 (百万円)	2,653	681	1,659	728
中間純利益 [△損失] (百万円)	512	△ 381	101	△ 245
1株当たり 中間純利益 [△損失] (円)	1.96	△ 1.47	0.39	△ 0.95
資産合計 (百万円)	161,926	171,907	123,410	123,292
資本合計 (百万円)	71,820	72,758	58,030	56,409



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。ここに第91期上半期の事業概況をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当上半期のわが国経済は、設備投資が緩やかに持ち直しの動きを示したものの、デフレが長引くなか、個人消費が低迷し、失業率が高水準で推移するなど、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

化学業界におきましては、イラク戦争の影響によりナフサ価格が高騰し、原燃料価格が上昇するなど、依然として厳しい経営環境のうちに推移いたしました。

当社は、このような状況のもとで、販売数量の確保、製品価格の是正を図るなど積極的な営業活動を行う一方、固定費、物流費など一層のコストの削減を遂行し、全社をあげて業績の回復に努めてまいりました。

その結果、当上半期の東亜合成グループの連結売上高は、645億7千7百万円と前年同期に比べ16億1千4百万円、2.6%増加いたしました。また、単独の売上高は、350億8千万円と前年同期に比べ15億6千4百万円、4.7%増加いたしました。

損益につきましては、連結経常利益は、26億5千3百万円と前年同期に比べ19億7千2百万円、289.4%増加いたしました。

単独の経常利益は16億5千9百万円と前年同期に比べ9億3千万円、127.6%増加いたしました。また、連結中間純利益は、5億1千2百万円と前年同期に比べ8億9千3百万円、改善いたしました。単独の中間純利益は、1億1百万円と前年同期に比べ3億4千6百万円、改善いたしました。

なお、誠に遺憾ながら、当期の中間配当につきましては見送りとさせていただきますので、何とぞご了承を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年下半期の見通しにつきましては、米国経済の景気回復が期待される一方、なお不透明感は拭えず、デフレ下での競争激化により引き続き厳しい経営環境が続くものと思われまます。

当社といたしましては、成長製品の育成による高収益型事業構造への変革、関係会社との共同研究開発をはじめとする連結経営の徹底など中期経営計画の推進により業績の回復に努めてまいり所存であります。また、製品の品質と安全性の確保および環境問題につきましても積極的に取り組んでまいりたいと存じます。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年9月



代表取締役社長

やま であ あき ひこ
山 寺 炳 彦



小さくても“キラリと光るダイヤモンド”を目指して

Q 今年3月に社長に就任されたわけですが、今後の抱負についてお聞かせください。

A 私は東亜合成グループを、小さくても存在感があり、いつもキラリと光っているダイヤモンドのような企業にしたいと考えています。そのためには「他にはない強み」をもつことが大切ですが、この点では、当社は長年独自の研究開発で、多くのユーザーから「個性ある企業」としての評価をいただいております。これからも、強い研究開発力を基盤とする独自性をもち続け、日本だけでなく、世界で評価される化学メーカーを目指して、この愛すべき「小さなダイヤモンド」を磨き続けていきたいと思っております。

再び成長路線へ

Q 上半期を終えてのご感想と、下半期の方針についてお聞かせください。

A 上半期の業績は増収増益となりました。これは、当グループが再び成長路線へ復帰したことを物語っています。今年は、2002年にスタートした3年間の中期経営計画の2年目にあたり、その基本戦略である「高機能・高収益型事業構造への変革」を一層加速させていくつもりです。業界トップシェアの瞬間接着剤「アロンアルファ」をはじめ、アクリル事業の成長株である光硬化型樹脂「アロニックス」の海外展開、無機高純度化製品の開発、抗菌剤・消臭剤の展開など、成長分野である「エレクトロニクス」「ライフサイエンス」に経営資源を集中し、事業構造を高機能・高収益型に変えてまいります。また、そのうえにひとつずつ新製品を加えていくことで、成長路線をより確実なものとし、株主の皆様のご期待にお応えできるよう、全力を挙げて職務に邁進する決意です。

小さくても
「キラリと光るダイヤモンド」
になりたい。
代表取締役社長 山寺 炳彦



環境と調和した持続的発展に向けて

Q 環境問題に対するお考えをお聞かせください。

A 環境問題への積極的な取り組みは、化学企業の社会的責務です。当グループはレスポンスブル・ケア活動で、省エネルギーの推進、産業廃棄物の削減、環境負荷物質の排出量の削減などに取り組んでいます。活動内容の詳細は、毎年発行する「環境報告書」に掲載するとともに、ホームページ上でも情報を公開しています。



コンプライアンス経営こそ企業の存続基盤

Q コンプライアンスに対してはどのようにお考えですか。

A 私はコンプライアンス経営とは、単に法令を順守するだけでなく、株主の皆様、地域社会、ユーザー、取引先の方々のご期待にお応えすることだと考えています。当グループの存続基盤を万全にするため、「法令を順守しているか、当グループの規定に沿っているか、またその規定は古くないか」を指針として、常に再点検をし、社員の教育をしながら、規定の改善に努めております。

コーポレート・ガバナンスを強化、情報公開もスピードアップ

Q 最後にコーポレート・ガバナンスやIRについてお聞かせください。

A 2001年に経営と執行の分離を目的として取締役の人数を削減し、「執行役員制度」を導入いたしました。さらに、今からは社外取締役を招きグループ経営の監督機能を強化するとともに、法律の専門家である弁護士の監査役を迎え、監査機能の強化を図りました。また、あらゆる経営情報をスピーディーに公開するため、ホームページ上の「投資家情報」サイトをより充実したものにリニューアルいたしました。是非一度ご覧いただければ幸いです。
→詳しくはサイトインフォメーション(11頁)をご覧ください。

Top Interview

営業の概況

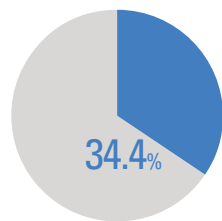
Commodity Chemicals

基礎化学品部門 さまざまな製品の原料として、あらゆる産業を通して暮らしに貢献する基礎化学品事業

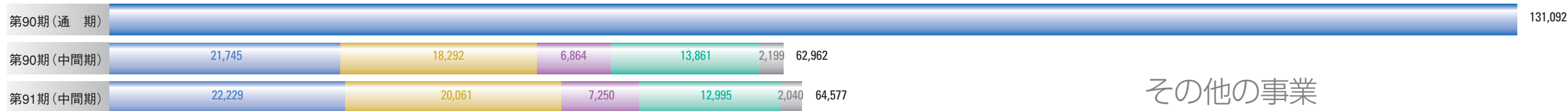


紙・パルプの製造工程で

苛性ソーダは、一部大手需要家の使用量が回復しましたことから出荷が堅調に推移しましたが、製品価格が低下しましたため、売上高は前年同期に比べ減少いたしました。無機塩化物は、次亜塩素酸ソーダ、液体塩素の出荷が低調に推移しましたが、過塩化鉄液の出荷が好調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べやや増加いたしました。塩素系有機溶剤は、出荷が順調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べ増加いたしました。硫酸は、出荷が好調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べ微増いたしました。鶴見曹達(株)は、出荷が順調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べやや増加いたしました。東亜テクノガス(株)は、出荷が順調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べ増加いたしました。この結果、基礎化学品部門の売上高は、222億2千9百万円となり、前年同期に比べ、4億8千4百万円、2.2%の増加となりました。



部門別売上高の推移 (百万円)



Business Portfolio

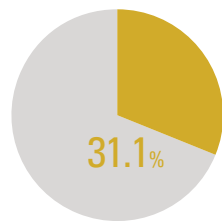
Acrylic Products

アクリル製品部門 原料から素材まで、東亜合成のコアとして国際市場で存在感を発揮するアクリル事業



粘着剤や塗料の原料として

アクリル酸およびアクリル酸エステルは、出荷が低調に推移しましたが、国内向け製品価格の是正を実施いたしましたため、売上高は前年同期に比べ増加いたしました。アクリル系各種重合品につきましては、アクリル系ポリマーは、出荷が好調に推移しましたが、製品価格の低下により、売上高は前年同期に比べ微減いたしました。アクリル系オリゴマーは、出荷が好調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べ大幅に増加いたしました。高分子凝集剤は、出荷が好調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べ大幅に増加いたしました。日本純薬(株)は、出荷が堅調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べ増加いたしました。この結果、アクリル製品部門の売上高は、200億6千1百万円となり、前年同期に比べ、17億6千9百万円、9.7%の増加となりました。



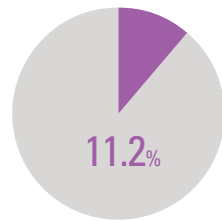
Specialty Chemicals

機能製品部門 基礎化学で培った技術とノウハウで、優れた機能性と特殊性を追求する機能製品事業



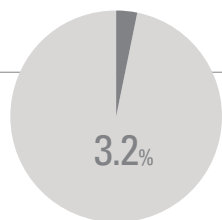
アロンアルファ・シリーズ
ネイルアート用もラインナップ

接着剤につきましては、出荷が堅調に推移しましたが、一般用の製品価格の低下により、売上高は前年同期に比べ微減いたしました。土木・建築製品は、出荷が低調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べやや減少いたしました。開発製品につきましては、半導体産業の復調により出荷が好調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べ大幅に増加いたしました。アロンエバークリップ・リミテッドは、出荷が堅調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べ増加いたしました。この結果、機能製品部門の売上高は、72億5千万円となり、前年同期に比べ、3億8千5百万円、5.6%の増加となりました。



その他の事業

輸送関係の売上高は、前年同期に比べやや減少いたしました。また、設備等の建設および修繕関係の売上高は、前年同期に比べ減少いたしました。この結果、その他の部門の売上高は、20億4千万円となり、前年同期に比べ、1億5千8百万円、7.2%の減少となりました。
(注) 当上半期より、その他の事業に計上されておりました(株)TGコーポレーションの売上高の一部を関連する製品部門へ計上することいたしました。



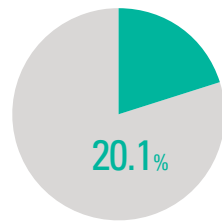
Plastics

樹脂加工製品部門 21世紀の豊かな生活・環境を創造し、社会に貢献する樹脂加工製品事業



高度情報化社会に対応する、
電力・通信ケーブルの保護管

管工機材製品は、下水道関連製品および電力・通信ケーブル用保護管の出荷が低調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べ減少いたしました。生活用品関連製品は、介護関連製品は好調に推移しましたが、自動車内装マットが終息し、出荷が低調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べ減少いたしました。コンパウンド製品は、出荷が堅調に推移しましたため、売上高は前年同期に比べ微増いたしました。この結果、樹脂加工製品部門の売上高は、129億9千5百万円となり、前年同期に比べ、8億6千5百万円、6.2%の減少となりました。



中間連結貸借対照表

(単位 百万円)

科目	当中間連結 会計期間末 平成15年6月30日現在	前中間連結 会計期間末 平成14年6月30日現在	増減
資産の部			
流動資産	68,089	71,131	△ 3,041
現金および預金①	7,185	9,386	△ 2,201
受取手形および売掛金	39,826	41,206	△ 1,380
有価証券	415	258	156
たな卸資産	13,159	13,171	△ 11
繰延税金資産	666	533	132
その他	6,906	6,678	227
貸倒引当金	△ 68	△ 104	35
固定資産	93,828	100,759	△ 6,930
有形固定資産	74,306	76,230	△ 1,923
建物および構築物	25,539	26,413	△ 874
機械装置および運搬具	25,298	26,363	△ 1,065
その他	23,468	23,452	16
無形固定資産	1,350	1,527	△ 177
投資その他の資産	18,171	23,000	△ 4,829
投資有価証券②	12,959	16,331	△ 3,372
繰延税金資産	768	1,297	△ 529
その他	4,618	5,753	△ 1,135
貸倒引当金	△ 174	△ 381	207
繰延資産	7	17	△ 9
資産合計	161,926	171,907	△ 9,981

① 現金および預金

前中間連結会計期間末日が金融機関休業日であったため、期越え資金を厚めに持っていたことおよび当中間連結会計期間末において有利子負債の圧縮に努めたこと等により、前中間会計期間末に比べ22億1百万円減少いたしました。

② 投資有価証券

平成14年12月における株式市場の低迷により、前連結会計年度末において24億5千6百万円の投資有価証券評価損失を計上したこと等により、前中間会計期間末に比べ33億7千2百万円減少いたしました。

③ 負債合計

前中間連結会計期間末に比べ、有利子負債を66億1千9百万円圧縮しましたが、平成14年7月1日付で連結子会社の鶴見曹達㈱を100%子会社化したことに伴い連結調整勘定が24億3千4百万円増加したこと等により、前中間会計期間末に比べ36億7千7百万円の減少となっております。

中間連結損益計算書

(単位 百万円)

科目	当中間連結 会計期間 平成15年1月1日から 平成15年6月30日まで	前中間連結 会計期間 平成14年1月1日から 平成14年6月30日まで	増減
経常損益の部			
営業損益の部			
売上高⑤	64,577	62,962	1,614
売上原価	46,338	45,823	514
売上総利益	18,238	17,139	1,099
販売費および一般管理費	14,894	15,557	△ 663
営業利益⑥	3,344	1,581	1,762
営業外損益の部			
営業外収益	700	699	0
受取利息および配当金	170	345	△ 174
雑収入	529	354	175
営業外費用	1,390	1,599	△ 208
支払利息	406	455	△ 49
雑支出	984	1,144	△ 159
経常利益	2,653	681	1,972
特別損益の部			
特別利益	29	618	△ 588
特別損失	332	374	△ 42
税金等調整前中間純利益	2,350	924	1,425
法人税、住民税および事業税	1,821	1,020	801
法人税等調整額	△ 2	263	△ 266
少数株主利益	19	22	△ 3
中間純利益 [△ 損失]	512	△ 381	893

④ 少数株主持分

少数株主持分減少のうち、52億8千8百万円は鶴見曹達㈱の100%子会社化によるものであります。

⑤ 売上高

主として景気の回復に伴う全般的な数量効果と、アクリル製品における製品価格の是正効果が寄与いたしましたため、前中間連結会計期間に比べ16億1千4百万円の増加となっております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

科目	当中間連結 会計期間 平成15年1月1日から 平成15年6月30日まで	前中間連結 会計期間 平成14年1月1日から 平成14年6月30日まで	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,476	7,583	892
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,664	△ 4,346	△ 317
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,339	△ 3,729	△ 1,609
現金および現金同等物に係る換算差額	11	△ 95	106
現金および現金同等物の増減額	△ 1,515	△ 588	△ 927
現金および現金同等物の期首残高	8,586	10,015	△ 1,429
新規連結に伴う現金および現金同等物の増加額⑦	146	22	124
現金および現金同等物の中間期末残高	7,217	9,449	△ 2,231

⑥ 営業利益

売上高の回復に加え、物流費、固定費の合理化効果が寄与いたしましたため、前中間連結会計期間に比べ17億6千2百万円の増加となりました。

⑦ 新規連結に伴う現金および現金同等物の増加額

当中間連結会計期間において、東昌化学股份有限公司、台湾東亞合成股份有限公司の2社を連結子会社といたしました。

中間単独貸借対照表

(単位 百万円)

科目	当中間 会計期末 平成15年6月30日現在	前中間 会計期末 平成14年6月30日現在	増減
資産の部			
流動資産	41,283	43,783	△ 2,503
現金および預金	1,737	4,913	△ 3,176
受取手形	4,614	5,026	△ 412
売掛金	16,755	15,762	993
たな卸資産	7,402	7,535	△ 132
関係会社短期貸付金	13,992	10,219	3,772
繰延税金資産	135	66	69
その他	1,532	1,636	△ 103
貸倒引当金	△ 4,886	△ 1,372	△ 3,513
固定資産	82,120	79,487	2,633
有形固定資産	49,088	49,748	△ 659
建物および構築物	17,630	18,190	△ 560
機械装置	15,296	15,517	△ 220
土地	14,283	14,312	△ 28
その他	1,878	1,727	150
無形固定資産	1,117	1,302	△ 184
投資その他の資産	31,913	28,437	3,476
投資有価証券	9,091	11,125	△ 2,033
関係会社株式①	15,370	10,140	5,230
繰延税金資産	4,693	4,004	688
その他	4,520	5,672	△ 1,151
貸倒引当金	△ 1,763	△ 2,505	742
繰延資産	5	17	△ 11
資産合計	123,410	123,292	118

(単位 百万円)

科目	当中間 会計期末 平成15年6月30日現在	前中間 会計期末 平成14年6月30日現在	増減
負債の部			
流動負債	43,774	26,534	17,239
買掛金	8,136	7,218	918
短期借入金	10,879	6,626	4,252
1年内償還予定の社債	10,000	-	10,000
コマーシャル・ペーパー	3,000	5,000	△ 2,000
未払法人税等	566	-	566
その他	11,191	7,688	3,502
固定負債	21,605	40,348	△ 18,742
社債	15,000	25,000	△ 10,000
長期借入金	3,684	11,826	△ 8,142
退職給付引当金	1,846	2,335	△ 488
役員退職慰労引当金	184	201	△ 16
その他	889	984	△ 94
負債合計	65,379	66,882	△ 1,502
資本の部			
資本金	20,886	20,886	-
資本剰余金	18,278	15,622	2,655
資本準備金②	18,031	15,622	2,408
自己株式処分差益	246	-	246
利益剰余金	18,315	20,988	△ 2,672
(うち当中間純利益[△損失])	(101)	(△ 245)	(346)
その他有価証券評価差額金	987	984	3
自己株式	△ 437	△ 2,072	1,635
資本合計	58,030	56,409	1,621
負債・資本合計	123,410	123,292	118

① 関係会社株式

平成14年7月1日付で、株式交換により子会社の鶴見曹達㈱を100%子会社化した持分増加53億8千4百万円等により、前中間会計期末に比べ52億3千万円増加いたしました。

② 資本準備金

平成14年7月1日付で、株式交換により鶴見曹達㈱を100%子会社化した際に、新株を発行しましたため、前中間会計期末に比べ24億8百万円増加いたしました。

③ 売上高

主として景気の回復に伴う全般的な数量効果が寄与いたしましたため、前中間会計期間に比べ15億6千4百万円の増加となりました。

中間単独損益計算書

(単位 百万円)

科目	当中間 会計期間 平成15年1月1日から 平成15年6月30日まで	前中間 会計期間 平成14年1月1日から 平成14年6月30日まで	増減
経常損益の部			
営業損益の部			
売上高③	35,080	33,516	1,564
営業費用	33,631	32,877	754
売上原価	25,913	24,743	1,169
販売費および一般管理費	7,718	8,134	△ 415
営業利益	1,449	639	810
営業外損益の部			
営業外収益	844	949	△ 105
受取利息および配当金	635	676	△ 41
雑収入	209	272	△ 63
営業外費用	634	859	△ 225
支払利息	355	377	△ 22
雑支出	279	482	△ 202
経常利益	1,659	728	930
特別損益の部			
特別利益	-	483	△ 483
特別損失	1,260	1,679	△ 419
税引前中間純利益 [△損失]	399	△ 467	866
法人税、住民税および事業税	600	20	580
法人税等調整額	△ 302	△ 242	△ 60
中間純利益 [△損失]④	101	△ 245	346
前期繰越利益	2,541	2,849	△ 308
中間未処分利益	2,642	2,604	38

■商法第210条の規定に基づく自己株式の取得状況

(平成15年6月30日現在)

- 第90期定期株主総会(平成15年3月28日)における授権状況
 - (1)取得する株式の種類 普通株式
 - (2)取得する株式総数(上限) 1,200万株
 - (3)株式の取得価格の総額(上限) 24億円
- 当中間期における自己株式取得の累計
 - ①買付株式総数 普通株式 950,000株
 - ②買付価格の総額 170,379,000円
- 当中間期末における保有自己株式
 - 普通株式 2,710,919株

なつかしの
テレビCM
名場面集

アロンアルファ®

アロンアルファ ゼリー状瞬間「トライアル編」(1985年)

第28回 全日本CMフェスティバル 15秒 ACC賞
第35回 カンヌ国際広告祭 30秒 TV部門 金賞
第30回 クリオ賞 30秒 クリオ賞

覚えていますか? トライアルバイクがアロンアルファをつけた柱に瞬時にくっついて
しまうという衝撃的なシーンを――。

このCMは数々の広告賞を受賞し、テレビのパラエティー番組をはじめ、各種のイ
ベントでCMシーンの実演を行いました。

- ホームページ上に映像を公開しておりますので、是非ご覧ください。

<http://www.toagosei.co.jp/aron/movie/index.htm>

- アロンアルファの「用途例コンテスト」を実施しております。

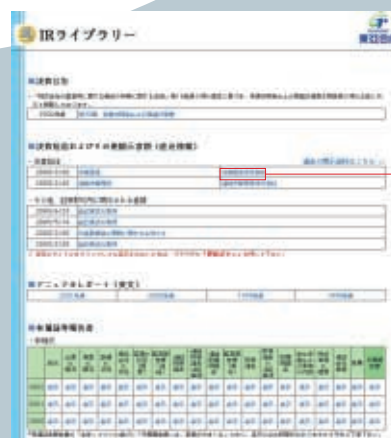
詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.toagosei.co.jp/aron/contest/index.htm>

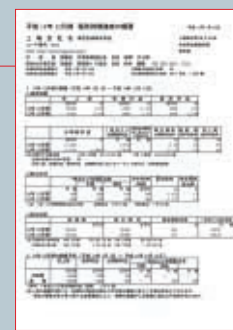
決算情報をスピーディーに お届けします。

株主の皆様へ決算情報をスピーディーにお届
けするため、ホームページの投資家情報サイトに
「IRライブラリー」を新設しました。決算に関する
すべての資料が、発表日の翌朝からご覧いた
だけになりました。

<http://www.toagosei.co.jp/statement/irlibrary.htm>



サイトの水色の文字をクリックすると
資料がご覧いただけます。



Renewal

設立	昭和17年3月31日		
資本金	20,886百万円		
従業員数	連結2,761名	単独1,250名	
事業所	本 店	東京都港区西新橋一丁目14番1号 (〒105-8419) 電話 東京 (3597)-7215 (ダイヤルイン)	
	大 阪 支 店	大阪府北区中之島三丁目3番3号 中之島三井ビル11階 (〒530-0005)	
	名 古 屋 支 店	名古屋市中村区名駅南一丁目16番30号 東海ビル3階 (〒450-0003)	
	北 陸 営 業 所	高岡市伏木二丁目1番3号 高岡工場内 (〒933-0195)	
	四 国 営 業 所	坂出市昭和町二丁目4番1号 坂出工場内 (〒762-0004)	
	福 岡 営 業 所	福岡市中央区天神二丁目14番2号 福岡証券ビル4階 (〒810-0001)	
	広 島 営 業 所	広島市中区基町11番10号 (〒730-0011)	
	名 古 屋 工 場	名古屋市港区昭和町17番地の23 (〒455-0026)	
	徳 島 工 場	徳島市川内町中島575番地の1 (〒771-0188)	
	高 岡 工 場	高岡市伏木二丁目1番3号 (〒933-0195)	
	坂 出 工 場	坂出市昭和町二丁目4番1号 (〒762-0004)	
	名古屋研究機構	名古屋市港区船見町1番地の1 (〒455-0027)	
	つくば 研 究 所	つくば市大久保2番 (〒300-2611)	

東亜合成グループの主要な事業内容および主な関係会社

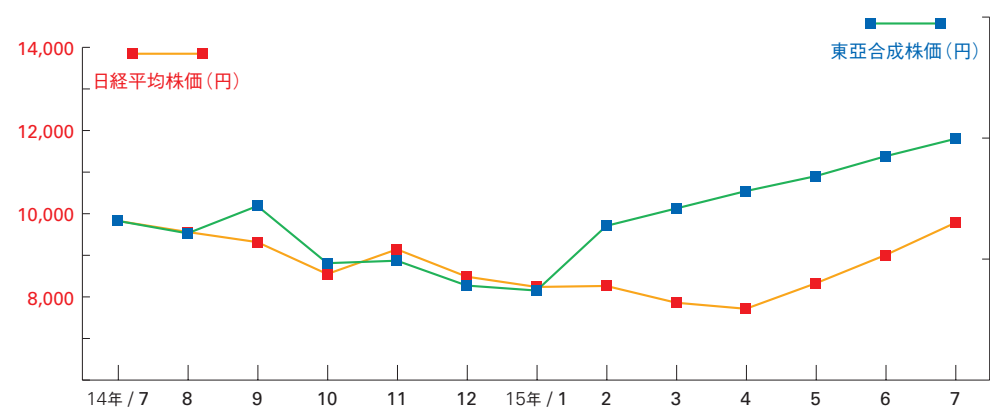
部門別	製品	主な関係会社
化学品 事業	基礎化学品 苛性ソーダ、苛性カリおよび次亜塩素酸ソーダ・過塩化鉄液・液体塩素・ 塩酸など無機塩化物、硫酸など農業関連製品、硫酸、塩素系有機溶剤、 窒素・アルゴン等の工業ガス、特殊ガス 等	鶴見曹達(株)、 東亜テクノガス(株)
	アクリル製品 アクリル酸、アクリル酸エステル、紙加工助剤・粘着剤・増粘剤・高分 子凝集剤などアクリル系各種重合品 等	大分ケミカル(株)、日本純薬(株)、 トウアゴウセイ・アジア・ピーティーイー・リミテッド、 シンガポール・アクリリック・エステル・ピーティーイー・リミテッド、 東昌化学股份有限公司、台湾東亜合成股份有限公司
	機能製品 一般用・工業用各種接着剤、土木・建築製品、銀系無機抗菌剤・無 機系消臭剤・無機イオン交換体・粉体塗料などの各種開発製品 等	東亜建装(株)、トウアゴウセイ・アメリカ・インク、 東亜合成香港有限公司、東亜合成(珠海)有限公司、 アロンエバーグリップ・リミテッド、アロン包装(株)
	樹脂加工製品 下水道関連管工機材製品、電力・通信関連管工機材製品、介護関 連および環境保全関連などの生活用品関連製品	アロン化成(株)
	事業内容	主な関係会社
その他の 事業	東亜合成グループの商事部門、設備機器等の設計・施工・管理・修 繕事業、エンジニアリング事業、ビル・駐車場等仲介・管理事業、輸送 関連事業 等	(株)TGコーポレーション、TOAエンジニアリング(株)、東亜エステート(株)、 東亜興業(株)、東亜物流(株)、北陸東亜物流(株)、四国東亜物流(株)

■ 会社が発行する株式の総数	480,000,000株
■ 発行済株式の総数	263,992,598株
■ 株主数	35,700名

■ 大株主の状況

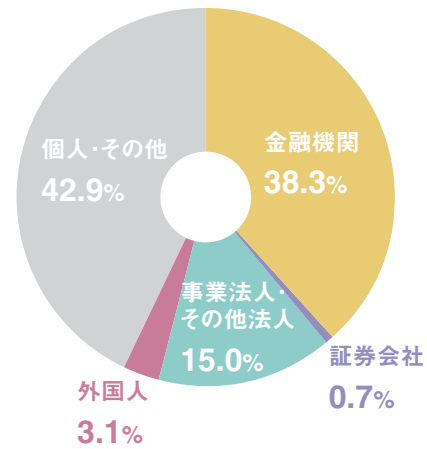
株主名	所有株式数 (千株)	議決権比率 (%)
株式会社三井住友銀行	11,636	4.56
株式会社UFJ銀行	11,295	4.43
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,890	3.49
東亜合成従業員持株会	6,695	2.63
あいおい損害保険株式会社	5,540	2.17
東亜合成取引先持株会	5,497	2.16
東京海上火災保険株式会社	5,300	2.08
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)	4,722	1.85
株式会社みずほコーポレート銀行	4,602	1.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,528	1.78

■ 当社株価および日経平均推移 平成14年7月1日～平成15年7月31日



※ 株価は、東京証券取引所における毎月の最終株価の推移であります。

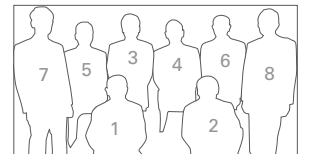
■ 株式所有者別分布状況



代表取締役会長	福澤 文士郎 1	取締役	山田 勝敏 7
代表取締役社長	山寺 炳彦 2	※ 取締役	日比野 重久 8
取締役	鈴木 佐幸 3	監査役(常勤)	北島 基行
取締役	寺尾 學 4	* 監査役	大野 剛義
取締役	有澤 章夫 5	監査役	伊東 洋只
取締役	加藤 秀樹 6	* 監査役	佐藤 勝

(注) 1. ※ 取締役日比野重久は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。

2. * 監査役大野剛義、同佐藤 勝は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。



株主メモ

- 決算期…………… 毎年12月31日
- 定時株主総会…………… 毎年3月に開催
- 配当金受領株主確定日 毎年12月31日
なお、中間配当を実施するときの株主確定日は毎年6月30日
- 名義書換代理人…………… 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
- 同事務取扱所…………… 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(証券代行事務センター) 〒168-0063
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話 東京(03)3323-7111(大代表)
- 同取次所…………… 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
- 公告掲載新聞名…………… 日本経済新聞(東京)

お知らせ

当社は貸借対照表および損益計算書を、決算公告に代えてホームページに掲載することといたしましたのでお知らせいたします。

当社ホームページアドレス <http://www.toagosei.co.jp/>

ご案内

各種手続用紙のご請求について

各種手続用紙のご請求については、名義書換代理人の電話およびインターネットで24時間お受けしております。

なお、電話による受付では

- ・住所変更届
- ・名義書換請求書
- ・単元未満株式買取請求書
- ・配当金振込指定書

の4種類をお受けいたしております。

受付フリーダイヤル **0120-87-2031**

ホームページアドレス http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html



この報告書は、環境にやさしい大豆油インキを使用して印刷しています。



古紙配給率100%再生紙を使用しています